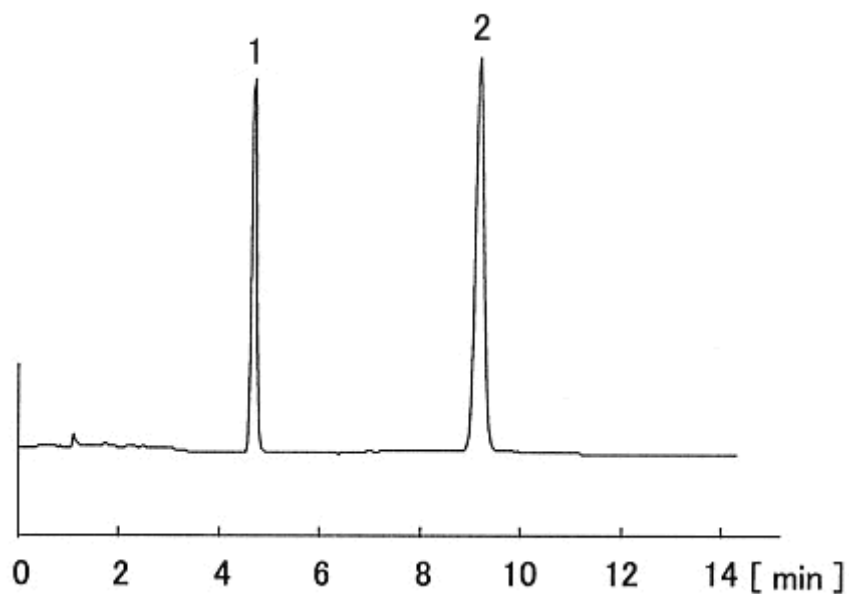


第十四改正日本薬局方第二追補に収載が予定されている改正案の条件にて、プロピオン酸テストステロンの定量法/システム適合性/システム性能を確認しました。内標準物質(プロゲステロン)、プロピオン酸テストステロンの順に溶出し、その分離度は9以上と規定されています。C₁₈ MG S5は分離度19.4で選定条件に適合しています。



1	プロゲステロン(I.S.)	2	プロピオン酸テストステロン
	Progesterone(I.S.)		Testosterone propionate
	22.5 µg/mL		25 µg/mL

HPLC Conditions	
Column	CAPCELL PAK C ₁₈ MGII S5 : 4.6 mm i.d. × 150 mm
Mobile phase	CH ₃ CN / H ₂ O = 7 / 3
Flow rate	1.0 mL/min
Temperature	35
Detect	UV 241 nm
Inj. vol.	5 µL
Resolution	19.4